

シニア専修コース けやき便り

第8号

編集発行

園田学園女子大学

シニア専修コース

「けやき便り」編集クラブ



総合生涯学習センター所長 木村 保司

「時 間 最 高」

地球が誕生して46億年。その前に宇宙が誕生して138億年。地球が誕生してから6億年ほど経った頃、海で生命が誕生したと言われています。さらに1億年から7千万年前に、地球上に最初の霊長類が現れました。4千万年ほど前に、霊長目の亜目として類人亜目が分かれ出ます。顔もより人間に近くなります。3千万年前くらいには、さらに尾のないテナガザルのようなサルが現れました。1700万年前になると、より大型のゴリラ、チンパンジー、オランウータンなどのサルが現れます。つまりヒト科の誕生です。600万年前から500万年前くらいには、より人間に近い動物が現れます。これは、より大きな脳を持ち、楽々と二足歩行ができるようになった霊長類です。人類の直接の祖先と目されています……。略。しかし結局、数百億年後に宇宙はビッグリップという現象で終末を迎えるそうです。つまり、宇宙という存在自体が無くなるのです。だから「宇宙旅行」「宇宙ステーション」「宇宙植民地」などという物理的革命ばかりか「歴史的・未来的ロマン」「永遠」「夢」「幸福」などという言葉の精神性すら消えてなくなる理由です。何のために生きるのか？ギリシャの哲学者が延々と考えてきた命題でもありました……。自分が余りにちっぽけ過ぎて、考えることもアホらしくなってきました。(疲れ)。

とは言っても、私たちの頭脳は「今を生きる感覚」を大切にし、日々精進している人たちで溢れているのです。こんな莫大な時間(宇宙の一生)の流れからすると私たちの人生の時間は1秒もあるのかしら？と思うのですが、脆く儚いゆえに愛しく貴重なものとも言えます。開高健は言いました。「ゆっくり急いで！」と。なるほど！人生は限界があるから果てしなくオモロイのだ。だからこそ学習も—いつやる？そう、やっぱり今でしょう！

シニア専修コースや公開講座を受講されている皆様、今まで積んでこられた知識の泉を是非とも、この園田学園女子大学でさらに蓄積発展されますよう祈念いたします。また授業やクラブ活動を思いっきり楽しんでください。センターは、皆様の学習環境をよりよくサポートできるよう、努力して参りますから。

シニア専修コースでご指導を頂く先生方からのメッセージ

なお、敬称は省略、順序はあいうえお順で掲載させて頂いています。

1 段目	お名前	2 段目	お写真	3 段目	役職名
4 段目	ご担当科目	5 段目	メッセージ		

文学歴史学科・国際文化学科

井上 勝志		岩崎 日出男		大江 篤	
					
本学教授 近松研究所所長		本学教授		本 学 教 授	
近世文学購読		漢詩漢文の世界(前期) 仏教の歴史と思想(後期)		日本史学Ⅰ	
本年度は、近世芸能の様々なテキストを講読します。説経、古浄瑠璃、近松浄瑠璃や歌舞伎、歌謡などを少しでも多く読んでいきたいと思います。近世芸能の広がりを感じてください。		私たちの生活に身近な仏教行事（お盆・お彼岸・49日など）を通して、仏教の思想を講義します。また漢詩や故事成語を中心とした、日本人にもなじみ深い作品から中国の歴史や文学を学んで戴きたいと思います。		今年度は日本史学Ⅰを担当いたします。1学期は「敗者の古代史」2学期は「古代人と神々」がテーマです。史料に向き合い、体感できる歴史学を目指します。	
葛西 進司		河合 利光		桐藤 薫	
					
元本学非常勤講師 元梅花女子大学教授		本学教授		本学非常勤講師	
国際事情		文化人類学入門 アジア太平洋文化論(前期) 国際文化演習(2)		東洋史概説	
P 6 に記載しています		本年度もよろしくお願い致します。園田・民博連携講座でもお会いします。		歴史を学ぶことを通して他者を理解し、ひいては自己を理解することに繋がればと願っております。	

文学歴史学科・国際文化学科

久下 隆史



元県立北摂三田高校長
民俗芸能学会評議員

日本史学Ⅲ

P6に記載しています

久禮 旦雄



京都産業大学非常勤講師

日本史学Ⅱ

日本古代国家が編纂した史書である『続日本紀』にみえる菟卒伝（伝記）を読んでいます。奈良時代の人々の生き方に触れると共に、『続日本紀』の編纂意識を読み取っていききたいと思います。

桑原 一歌



園田学園女子大学
シニア専修コース講師

日本文学Ⅱ
日本古典文学研究Ⅱ

はじめまして、日本文学Ⅱでは『源氏物語』の講読を、日本古典文学研究Ⅱでは『枕草子』の講読を担当いたします。どうぞよろしくお願いします。

高 賛侑



ノンフィクション作家

韓国の歴史と文化

いまや「韓流」の名で世界に進出する韓国には、実は長い激動の歴史があり、その中で民族特有の文化が育まれてきました。本講座では近・現代を中心に、特に重要なテーマを描いた映画、映像の秀作を鑑賞しながら、韓国の実情を学ぶとともに、より良い日韓関係の在り方を考えていきたいと思います。

島田 とよ子



本学教授

日本文学Ⅰ

日本の古典文学の魅力をお話し出来たら、と思っています。

谷川 泰教



高野山大学名誉教授

仏典を読む

書店では一般向けの仏教書やブツダに関する本を多く見かけますが、できるならブツダのナマの言葉に近いものを自分の目と心で読んでみたいものです。そのお手伝いができたらと願っています。

文学歴史学科・国際文化学科		
福田 誠二	本城 二郎	松山 利夫
		
兵庫教育大学特命准教授	関西チェコ／スロバキア協会理事、大阪大学言語文化研究科非常勤講師（チェコ語担当）	平安女学院大学特任教授 国立民族学博物館名誉教授
日本史学研究	異文化理解(後期)	多文化共生論 日本の風土と文化
二百年前の文献を読むのは、初めは大変かもしれませんが、理解が進むと、喜びもひとしおです。 阪神間の歴史をともに学んでいきましょう。	はじめまして。私は、縁あって、チェコに7年、スロバキアに2年留学し、現在、中東欧の言語文化研究を続けています。皆様も、外国滞在経験者が多いと聞き及んでいます。授業では、中東欧文化を一例として、異文化理解が深められるよう共に頑張りましょう！	仲間をふやしましょう！ 知的な雰囲気を楽しみましょう。
山口 悟	吉村 稠	吉本 康子
		
大阪学院大学准教授	本学名誉教授	国立民族学博物館外来研究員
ヨーロッパの社会と文化 西洋文化特論	日本文学Ⅲ 日本近現代文学研究Ⅰ 日本近現代文学研究Ⅱ	アジア太平洋文化論（後期）
歴史を楽しみましょう。	人生、何でもある！ 何でもある、文学の世界！ そのだ『シニア専』を楽しんでください。	日本との国交が樹立して40年。 活気あふれるベトナムの事例を通して、異文化理解の方法を学びましょう。

情 報 学 科		
小田桐 良一	垣東 弘一	清水 五男
		
本 学 教 授	本 学 教 授	本学准教授 情報教育センター所長
応 用 情 報 情報特論（前期） プログラミング（後期）	基 礎 情 報 ICT リーダー技法（後期）	基 礎 情 報 プログラミング（前期）
応用情報の前期を担当しています小田切良一です。 授業では、PowerPoint を用いた口頭発表を前提としたスライド作成や、大規模なデータを効率よく管理するデータベースの構築や検索の仕組みといった分野の実習を行います。	現代の情報化社会において、コンピュータの正しい知識と操作が行えることは大切なことです。これからの講座を通して、パソコンの基礎から応用まで学習していただき、パソコンを使ったよりよい生活が送れるようになっていただきたいと思います。難しい内容もあるかもしれませんが、最後まで私たちとともに頑張りましょう！	P6に記載しています
泰山 裕	堀田 博史	稲熊 孝直
		
本学非常勤講師	本 学 教 授	ティーチングアシスタント (TA)
基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅱ インターネット活用・応用情報	応 用 情 報 情報特論（前期）	
今年度からシニア専修コースを担当させていただきます泰山です。 日常的に使うことを意識して、授業を担当していきたいと思っています。 みなさんの役に立つ情報を、提供できればと思います。一年間、よろしくお願いいたします。	学び続ける楽しさを実感しましょう。	TAの稲熊です。よろしくお願いいたします。 シニアの皆さんには、答えを求める過程も大切にしてほしいと思います。時には遠回りになることもありますが、得られるものも多いはずです。微力ではありますが、私もサポートをさせていただきます！

情 報 学 科		
伊東 美樹	鍋野 有希	
		
ティーチングアシスタント (TA)	ティーチングアシスタント (TA)	
TAの伊東です。 私自身まだまだ勉強不足でわからないことも沢山ありますが、皆様と一緒に勉強していきたいと思います。皆様が楽しみながらパソコンを学べるようにサポートができるよう頑張ります。これから、よろしくお願いします。	TAの鍋野です。 多趣味な皆様と色々なお話が出来るのを楽しみにしています。 これからもたくさんのかたと一緒に学んでいけたらと思います。よろしくお願いします。	

葛西先生からのメッセージ

“国際情勢は複雑怪奇” といって、戦前、日本の外交団は国際連盟を脱退しています。確かに、国際関係は戦前も現代も、国益が絡みあい、一筋縄では理解できないかもしれませんが、それだけに、挑戦のし甲斐があります。物事にはウラとオモテ、本音と建前があります。そのウラ側を知れば、国際関係の本質が見えてきます。本講座では、新聞、テレビからでは見えてこない、国際ニュースの深層に迫ります。

本講座受講の皆様は、ビジネスや生活体験が豊かで、事任の裏側に、潜む本質を見抜く力を持っていますので、国際関係の理解により有利ではないかと思います。

久下先生からのメッセージ

退職して4年目を迎えました。皆さんとともに学びを深めることができ、感謝をしています。好きなことを、遠慮なく出来る、それほど楽しく心を豊かにしてくれるものはありません。今年も皆さんとともに学びを楽しみたいと思います。

清水先生からのメッセージ

兵庫県の工業高校の校長を退職し、情報教育センターの所長を務めて5年目を迎えました清水です。一昨年度2学期から「基礎情報処理」を、今年はこの科目に加え、1学期に「プログラミング」を担当することとなりました。皆さんは情報に関することを学ばれる機会は少なかつたと思いますが、本学でパソコンが実用的に使えるように学習に励んで欲しいと願っています。しかし、大事なのは基礎・基本をしっかりと身に着けることです。情報教育センターを十分に活用し、この力を育て下さい。

センタースタッフ



榊井

総合生涯学習センターへ異動してきて3年目になります。
本学文学部国文学科を卒業後、図書館や教務課で学生相手の仕事をしてきました。
園田学園での経験は結構長いですが、ここではさらに経験豊富な人生の先輩方がたくさんおられます。そんなみなさまに失礼な物言いがあればどうぞご海容下さい。

細木

総合生涯学習センターで一番日焼けをしている者です。主な業務は、園田学園テニスカレッジの企画管理、テニスを媒体にしたイベント等を開催しています。
皆様の行動力に日々感化されながら、自身の時間をいかに充実していくべきかを考えているところです。アドバイスよろしくお願いします。

宇野

園田学園に来て4年目になります。庶務や人事課を経て生涯学習に来ました。
主に申込みや入金関係の仕事をしています。授業やクラブ活動、旅行など充実した日々を送られている皆様を拝見して、自分の将来が楽しみです。

辰己

園田学園に来て2年目になります。職員の立場ではありますが、皆さんと同じように学生の時代からのキャンパスライフ、楽しんでいます！家に帰れば2才の子どもの子育てに毎日奮闘中です。

牧野

総合生涯学習センターで毎日楽しく仕事をさせていただき、シニア専修コースで生き生きと学び続けていらっしゃる皆さんに憧れています。
夢は笑顔の素敵なおばあちゃん。目標はコレステロール値を下げる事です。

3月14日（木）平成24年度シニア専修コース卒業式が行われました

卒業式が、午後1時から富永学長をはじめご来賓の方々のご臨席を頂き、AVホール（3号館2階）で執り行われ、今年から初めて卒業証書が卒業生一人一人に授与されました。

卒業生は、文学歴史学科…28名、国際文化学科…11名、情報学科…12名でした。



卒業式に際してお祝いの言葉を述べられる富永学長
写真撮影 けやき写真倶楽部

卒業式風景



写真撮影 けやき写真倶楽部



写真撮影 「けやき便り」編集クラブ

4月12日（金）平成25年度シニア専修コース入学式が行われました

入学式が、午後2時から富永学長をはじめご来賓の方々のご臨席を頂き、講堂（1号館4階）で執り行われ、入学許可証が授与されました。

新入生は、文学歴史学科…25名、国際文化学科…22名、情報学科…17名です。



入学のお祝いの言葉を述べられる富永学長

富永学長から入学許可証を授与される新入生代表



文学歴史学科 相田 晴夫さん



国際文化学科 池田 和直さん



情報学科 阿加井 静子さん



入学式に参加された方々



大学の歌等を披露されるコーラス部の皆さん

命なりけり学びの御園

文学歴史学科1年 相田 晴夫

富永学長の式辞を聞きながら、脳裏に西行の歌が浮かんた。

年たけてまた越ゆべしと思ひきや

命なりけり小夜の中山

西行は69歳。二度目の奥州への旅の途中、遠江の小夜の中山で詠んだ。私は入学式に臨んで、命なりけり、の感を深くした。

西行は73歳まで生きたが、平安時代の人は短命だった。紫式部は42歳頃、清少納言は45歳頃、和泉式部は50歳頃に亡くなった。人生80年を実現した日本に生きる私は、先人が築いた長寿社会の恩恵を有り難いことに思っている。

50を過ぎてからは、停年後は日本の古典を読もうと決めていた。本を買い進めて準備し、退職を迎えた。塚口の友人がシニア専修コースのことを教えてくれ、学ぶ機会があることを知った。10年来の夢が叶えられると思った。

学業を終えて40数年が過ぎていた。幸いにも命あって、今一度学ぶことができる僥倖を噛みしめている。優れた古典文学がある日本に生まれ、昭和平成の御代に生き、園田学園に通うことができることに感謝して、黒板に向かおう。学生に戻って、この3年を「わが人生の光輝く日々」にしようと、心は華やいでいる。

年たけて
また入るべしと
思ひきや
命なりけり
学びの御園

園田学園入学に際して

国際文化学科1年 池田 和直

さる4月15日、新しい期待を持って園田学園シニア専修コースに入学いたしました。思えば

数十年前、まだ若き時代に同じような期待に胸を躍らせてキャンパスに入ったのを思い出しております。

もう、若くはない、家でゆっくり過ごしたらと家族や友人の声を聴きながら、もう少し頑張ってみようと思ったのが大きな入学の動機です。

その、動機の細部につきましていくつかありますが、大きなものは次のようなものです。

その1は、新しいこと、知らないことを学びたいという気持ちであります。神戸シルバーカレッジにおいて3年間、いろいろなことを学びましたが、さらに新しいこと、知らないことを学びたいという知的な欲望を持ち、園田学園シニア専修コースに入学いたしました。年齢を重ねてくると、どうしても頭は衰えてくるもの。それを防止する意味からも、いろいろな知識を学び、頭の活性化を図りたいと考えております。

その2は、多くの人たちとの交わりです。色々な方々と語り合い、友人をつくり、いろいろなことを教えて頂き、楽しい日常生活を送りたいと思います。歳を取ったからと言って家に閉じこもることなく、外に出て多くの人と接してまだ知らないことを学んでゆきたいと思っております。

その3は、体と心の運動の必要性を感じております。数年前に大病を患い、苦しい闘病生活を送りました。闘病後、神戸シルバーカレッジに通うことで体が少しずつですが、健康になってきました。今度は家から園田学園まで電車などを利用して約1時間余。とても良い運動になるとともに、通学の途中新しい事柄に出会うこともあり、体だけでなく心の健康を保ちたいと考えております。その4は、人間的に少しでも成長したいと思っております。園田学園で知識を学び、良き友人を得て、少しでも、人間的に成長したいというのが、私の望みであり、当学園に入学した目的でもあります。

体に気をつけて、実のある有意義で楽しく、頑張ってみようと考えております。

新たな出会いを求めて

国際文化学科1年 樽井 敏彦

私は4年前に会社勤めを終えて、それまで暮らしていた富山市から神戸のほうへ移り住みました。神戸では知人や友人も少ないことから神戸市シルバーカレッジ (KSC) を紹介され、薦められるままに入学しました。そして今年の3月に卒業しましたが、学生生活を通じていろんな人や仲間たちとの出会いがあり、とても有意義な3年間を過ごすことができました。卒業後に空白になるカレンダーを埋めるためにも次の進路をどうするか思案していたところ園田女子学園のシニア専修コースのことを聞き、4月からお世話になることに決めました。

入学を決めた大きな理由は自宅(灘区)からの交通の便が良く通学しやすいこと、並びに当学園の講義内容が体系的に整備されていて興味を持てたことです。一応、国際文化を専攻しましたが、他の学科の講義も希望すれば受講できるというのも魅力です。入学して1ヶ月ほどが経過しましたが、講義の方は充実しているのですが、課外活動としてのクラブ数が少なく、他コースの学生の方々と出会うのが難しいように感じています。KSC で情報誌作りに携わっていたので迷うことなく「けやき便り」編集クラブに入会しましたが、クラブ数がもっと増えればと願うと同時に、チャンスがあれば新しいクラブも結成していければと考えています。

ともあれこれから3年間、新たに多くの素敵な方たちと出会えるよう講義やクラブ活動に積極的に取組んでいきますのでよろしくお願いいたします。

新しい出会い

情報学科1年 阿加井 静子

5年前、数十年ぶりに入学した大学(法学部)を昨春卒業し、次、何にチャレンジしようかと模索していたところ、たまたま、PCのセキュリティの件でサポーターの方にお世話になったとき、PCを自在に操作されるのを見てプロとは言え「スゴイ!」と、羨ましく思ったのがきっかけで、そうだ、ITのことを本格的に勉強して少しは意のままに操作できるよう挑戦してみようと思い立ち、希望に適した資料を集めました。

PCとの付き合いは、簡単な文章の入力やインターネットで情報を検索する程度の初心者なので、縁あって入った園田学園での講義に付いていけるかとても不安で大分迷いましたが、何もしないと何も始まらない、何時勉強する?今でしょ!と、ばかりに入学を決意しました。

例年の黄砂や花粉に加えて今年はPM2.5とやらの「飛散3兄弟」が飛来し外出もままならない中、どんなすばらしい出会いがあるのかワクワクしながら、必ず「目的は達成しよう」と、強い気持ちを持って入学式に臨みました。

入学して約1ヶ月経った現在、講義に付いていくのがやっとの状態ですが、早々にすばらしい仲間に出会えることができ、何とか皆さんに助けて戴きながら講義を受けている日々です。

この学校を選択し、難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く学ぶことが出来てとても良かったと思えるように、そしてこれからの3年間を新しく出会えた17人の仲間とともに楽しみながら有意義に過ごそうと思っています。

ぼちぼちいこか

情報学科1年 玉田 由三子

初めまして。私は昨年退職して暇ができ、今まで苦手と避けてきた沢山の事に少し挑戦したいと思うようになりました。たまたま訪れた伊丹の公民館でシニア専修コースのパンフレットを見つけました。

「これだ！」

と、その場で入学を決心しました。

始まって一ヶ月、毎時間先生の説明を聞きながら「此处は大事！」とメモしていると、画面は次に進んでいて、

「その画面どうやって出すの？」

「今どこ触った？」

と、お隣さんに尋ねながらの毎回です。

でも、授業に集中する90分が終わると「勉強した～！（理解は不十分でも）」という充実感が心地良いです。

理解力・記憶力が弱っているので、学習したことが定着しませんが、『ぼちぼちいこか』というぐらいの気持ちでゆっくり、でも諦めないで卒業を目指したいと思っています。これから三年間宜しくお願いします。

次の3名の2年生のメッセージは、入学式で新入生にお配りした「けやき便り編集クラブからのお知らせ」の「1年間の学び」から転載しています。

(注 けやき便り編集クラブ)

シニア専修コース

「健心健体」で学園生活を楽しむ

国際文化学科2年 郡 洋治

昨年4月16日(月)河合先生の第1回講義を受講して以来、1年があつという間に過ぎた。本年もまた、新入生の方々が入学され、勉学に交遊に活躍されることと思いますが、大いに羽根

を伸ばして、第2、第3の人生を飛躍されんことを期待しています。

私は今年、傘寿（6月に満80歳）を迎える後期高齢者ですが、いつまでも元気で長生きしたい、それは誰もの願いであると思う。わが国は平均寿命が世界トップレベルの長寿大国であるが、長寿者の中には、認知症や寝たきりなど、日常生活に支障のある人も含まれる。

昨今は「健康寿命」ということが広く使われるようになりました。

この「健康寿命」とはどのようなものか？

「一生のうち健康で支障なく日常の生活を送れる期間である」：：（2010年の健康寿命の平均は男性70.42歳 女性73.62歳：：厚労省資料による）

それでは「健康寿命」を維持するにはどうすればよいか？

まず生活習慣を整えること

(イ) 高血圧、糖尿病など生活習慣病を発症しないこと。

(ロ) バランスのとれた食生活と適当な運動と十分な休息をとる。

(ハ) 酒、タバコを控えめにすること。

「要は自己管理を十分自覚する」

振り返って、自分自身は何とか平均を超えはしているが、実生活は中々これには程遠い位置を占めていると思われる。本拙文作文では長年楽しんでるゴルフのクラブを持つ手を、ペンに持ち替え、白紙の原稿用紙を前にして、お茶を飲みながら、TVを見たり、気分転換をはかるだけで、マス目が少しも埋まらず、本当に

「老いを嘆かず、老いて虚しく生きるを嘆く」後期高齢者ではあるが、「光輝高齢者」としての自覚を忘れず、人生の第2章（第3章かな？）を意義あるように過ごす努力は続けたいと思う今日この頃である。

私の一年間の学び

文学歴史学科2年 橋本 秀明

若い頃から（今でも若い）文学・歴史は好きで本を山ほど読みました。近くの本大学でシニア専修コース「文学歴史学科」があるのを知り、またあの先生の授業を受けたい（学外・公開講座等で知る）ということで入りました。

日本文学Ⅰは日本の古典文学です。岩波文庫・角川文庫などに古典文学書が多くありつまみ食いするように読んでいましたが、体系的に学ぶのは初めて。いつか『源氏物語』を読みたいと思っていますが。

日本史学Ⅰは非常に面白い。単なる通史ではなく焦点を絞っての内容、民俗学といった方がいいでしょう。学際的（今や死語か）に種々の観点から物事を捉えることで見えないものが浮かんでくる。こんな楽しいことはありません。特に『万葉集』と『日本書紀』をリンクさせての授業は今でも記憶に残っています。余談ですが、今年1月に岩波文庫から万葉集1が発刊され即入手。万葉仮名で解明されていない歌があります。代表的な9番歌は未解明のまま掲載されていますが、実は毎日新聞2010/04/29夕刊に解明記事の一つがでています。定説ではないにせよ新しく本を出版する場合は、上記の補注もあればいいと思うのですが。

授業を受けるだけでなく多くの同級生・上級生・研究生と知り合い仲好しになること、クラブ活動に参加することで、楽しく生活を送ることができます。筆者は、クラブ活動として写真倶楽部とコーラス部に加入。後者においては、名ばかりの代表を務めています。歌をうたうことは健康にも大変いいとある先生は言っておられます。また、個人としてハイキングを企画しました。参加者に喜んでもらえるのも一つの楽しみです。

今を生きる（同じ題名の映画があったのでは）、生きていることを実感することで毎日を心地よく暮したいと思っています。

ご入学おめでとうございます

情報学科2年 野間 淑美

もう何十回目の春を迎えた事でしょう。

それでも春は、また新しい出会いを連れてきて胸をわくわくさせてくれます。

たった1年だけの先輩ですが、この1年間の反省も込めて、新しく入学されたみなさまに、少しのアドバイスになれば…。

この大学で学ぶ事を選ばれたみなさんは、経過も動機もそれぞれ様々でしょうが、情報学科があるシニア向けの大学は少なく、それだけに大学に対する期待も大きいかと思います。

聞きなれない専門用語が飛び交い、パソコンに向かう世界は、とても刺激的ですが、戸惑う事も多いようです。自分から情報を取りに行く、学びとる姿勢がなければ、習得は大変かも…。受け身で、そのうち何とかかなると思っていると、得られる果実は少ないのではないのでしょうか。ただ聞いているだけの講義と異なり、実技が要求されるITの世界は、だから面白いのですよね。

もちろん教室には、指導教官のほかに、やさしいアシスタントティーチャーがいて、戸惑う受講生にやさしくアドバイスをしてくださいませ。分からないところは、積極的に質問いたしましょう。

そして、一番大事なのは、同じ教室で学ぶ同級生とのつながり。一人で「ん？」と思う疑問も、気楽に聞きあえると、勉強もスムーズになります。情報学科の生徒はそんなに多くはありません。是非、一緒にお昼やお茶に誘いあって、友達関係を作ってください。

どうつながるかで、三年間が楽しくもなり、豊かにもなると思います。同級生だけでなく、上級生や様々な同好会にもぜひ積極的に参加してみてください。同じ時間をすごすなら、楽しく豊かな学びの時間を作りましょう。そのための装置は、この大学には沢山あると思います。

「舶来幕の内弁当」？

国際文化学科2年 塚本 幹

コンビニ弁当を購入された時に、入っている食材の産地を思い浮かべたことがありますか？そんなことはありませんよね。日本では加工食品の原産地を表示する必要のないことが、産地を判り難くしている一つの理由だと思います。

たまたま、あるコンビニの「和風幕の内弁当」の食材がどこから来ているかが判りました。この弁当の主菜三種は、鮭の塩焼きがデンマークから、鶏のから揚げは地球の裏側のブラジルから、海老フライはタイからの輸入品でした。その他には煮物としてレンコン、人参、里芋、椎茸、小松菜等の生鮮野菜類は中国から。意外なところでは、小松菜のあえものに添える白ゴマはトルコから来ていました。煮豆には遥かなる南米のボリビアから金時豆が届き、油あげ原材料の大豆はアメリカからでした。それぞれの食材は産地国の集積港に運ばれ、コペンハーゲン、リオデジャネイロ、天津等から東京港に向けて積み出され、弁当工場での調理を経て店頭に並ぶことになります。これらの輸入食材の輸送距離をすべて合算すると実に16万km。地球を一周すると約4万kmですから、地球4周分の距離を走ってきたことになります。海外からの食材が身の回りにあふれている感触は以前からありましたが、コンビニで販売されている「和風幕の内弁当」の正体は「舶来幕の内弁当」だったのです。

このことを私に教えてくれた本は小学校高学年向けの「コンビニ弁当16万キロの旅」（太郎次郎社 2005年発行）なのですが、たかが弁当にこれほど多くの食材が輸入されていたことは驚きでした。

国際文化学科の皆さんは、様々な国々の生活様式・生活習慣の多様さを学ばれることでしょうが、授業を通じて得られた「興味や驚き」が学びのレベルを上げることに繋がるものと思います。どうぞ楽しんでください。

好奇心を磨く園田の時間

文学歴史学科3年 田畑 正信

———「光陰矢の如し」

———「一寸の光陰軽んずべからず」

シニア専修コースに学んで、早くも2年、いま3年目をむかえています。私は、落ち着いて歴史を勉強したいと、当大学にきました。1年、2年はその思いにこだわって、歴史ひとすじに学んできました。しかし3年目をむかえて、はたと考えました。せっかく大学に来ているのに、もっと多様に学んでいくことも大事ではないかと。

さいわい、ここでは比較的多様な講座が開かれていますし、公開講座もあります。そこで今年は、いままでほとんど鑑たことのない映画、それも韓国映画と、夏目漱石の文学を学ぶことにしました。もともと歴史とは、それぞれの時代の多様な姿を広くつかむことが大前提だと思うからです。

私は、こだわることも大いに必要だが、ときにはちがった角度から歴史に接近していく、そこに新しい発見があるのではないかと考えています。

私たちにとって、まさに時間は「矢の如し」です。限られた時間に、できるかぎり多様な学問を多方面から学んでいきたいと考えます。こういうことは、あまたある単発の、しかも限られた時間の講座だけでは決して体験できないことではないでしょうか。

3年という短いようで長い時間、「軽んずべからず」だと思います。3年修了後には「研究生」という制度も用意されています。また、当大学は教育環境としては抜群です。図書館もたいへん充実しています。私の知るかぎり講師陣は社会経験の豊かな人びとから、新進気鋭の方がたまで、粒ぞろいのように思います。ぜひ、ごいっしょに知的な好奇心を精いっぱい磨いていこうではありませんか。ありがとうございました。

情報学科

第1回懇親会・新入生歓迎会を開催

情報学科2年 西島 登志子

新緑が清々しい5月15日(水)、1時限が授業の3年(3名)、2時限の1年(14名)がそれぞれ14時頃からチャティーに集まり、3時限の授業を終える2年(4名)を待って、14時40分、生涯学習センターからは所長の木村教授と榊井課長、情報学科からは小田桐教授と鍋野先生を来賓としてお迎えして、情報学科の第一回の懇親会・新入生歓迎会を行いました。



来賓の皆様、ご出席ありがとうございました



自己紹介 1分間では語りきれない話が次々です



くじで引いた席で楽しく歓談

情報学科は授業外にも、月・水・土にパソコン使用が可能です。1・2・3年と研究生が合同の教室で利用しています。しかし縦の繋がりが無いので、挨拶も交わすことなく1年が過ぎました。国際文化学科や文学歴史学科は懇親会などがあり、縦の繋がりが密だと聞くと情報学科も纏まりたいとの気持ちが膨らみ、2年3年の有志5人で春休みから計画し、着々と準備を重ねて、今回の情報学科全体の懇親会の運びとなりました。

その説明と「クラスの仲間とは、一緒に課題をしたり、授業のあと食事やお茶をしたりと、どんどん仲良くなっていくのですが、それだけでは物足りない、違う学年の方と縦の繋がりができたら…と言うのが、この会の願いです。」との開会の挨拶から始まりました。来賓の先生方からも、心温まるお言葉をいただき、ウーロン茶で乾杯！それぞれの乾杯！の言葉で心一つに！そのあと、大学生協さんの心づくしのお料理とワイン、コーヒーで歓談。参加者の一人1分自己紹介と続けました。シニアと言われる年齢になった皆さんのお一人お一人の人生が浮かび上がり1分では語り足りない人もいて、どんどん盛り上がっていきました。そんな中、アンケートで次回からの世話人を募集したところ、1年から5名、2年から3名、3年も3名が決定して、その場で紹介。次回へと繋がりました。《動かなければ出会えない》一歩動いて大きな出会いとなりました。この出会いを大切に情報の勉強、親睦を益々深めていきたいと思います。

情報の一本の樹に若芽もゆ (以上)

～アンケートの感想より～

☆この様な会を催して下さい、お心づかいありがとうございます。皆様とお話しできる機会を作って頂けたと思います。学習の上においてもよい結果になると思います。(1年 K・T)
 ☆ありがとうございました。みなさん、色々な所に勉強に通われていて、前向きな姿勢に元気をいただきました。次回の授業からは、今まで知らなかった方にも少しは話していけそうな気がします。(1年 Y・T)

3年間の学業を修了して

研究生 小村 良二

1. 60の手習いの終了

私は今春3月に、本学シニア専修コース国際文化学科における3年間の学業（＝生涯学習。以後すべて「学業」と表記）を修了した。学業を修了した現在の心境は、冷めた感情に気分が支配されている。しかし、かつて私が経験した生徒・学生時の卒業期にはこのように冷めた感情に落ち込んだことはなく、逆にいつも感慨深い思いが沸いていたものである。大昔の生徒・学生時の卒業期に経験した高揚した気分・感情と今春に味わった冷めた感情、その心境の落差は一体どこから来ているのだろうか。多分それは、卒業（修了）した後の次に新たな『始まり』が予定されているかどうか、つまり次に来るべき『始まり』の有無、に由来すると思われる。

大昔の生徒・学生時の卒業期には、卒業した後に進学や就職などの『始まり』が前もって予定されており、それが先々への期待感を沸き立たせて卒業時には高揚した気分を感じることができたのであろう。しかし、既に現役生活をリタイアした私は学業を終了しても、次に来るべき何らかの『始まり』の予定はない。したがってかつての学生時の卒業期とは異なって、自身の感情が高ぶることなど起こり得なかったといえる。

ともあれ、60の手習いの3年間は早くもあり遅くもあった。現在、私は研究生として引き続き本学に在籍しているが、これは先の3年間の学業の延長と考えている。

2. 入学（受講）の動機

在職中は仕事柄、地方へ出張する機会が多かった。その際、時間に余裕があればその地方の歴史民俗資料館や博物館、文化財関連施設などを見学した。しかし、それら施設内の多数の展示物などを観覧しても、その地方の沿革やかつての住人たちの暮らし振りは実感としてどうしても体得できなかった。その経緯の一例を挙げ

る。

現在は自動車の大生産地である愛知県豊田市の山村地域一帯は、かつては養蚕業や生糸業の盛況な地域であって、自動車生産の端緒となった豊田自動織機（製）は本地域の製糸業（蚕糸）の発展段階において誕生・成長した企業である。しかしながら、現在の豊田市の山村地域には何処を探しても桑畑は見当たらない。かつては活況を呈した養蚕業や生糸・製糸業は早くに衰退・消滅しており、現在はそれらの産業とは無関係の地方都市が存立している。そのため、豊田市の資料館や博物館に保存されている養蚕・製糸に関する展示物（パネルや歴史的産業遺産）などと、現在の同市の山村地域における産業や住民の暮らしとは、時間的な連続性や空間的な整合性がない。したがって私が観覧者として、資料館や博物館の展示物・展示パネルなどから豊田地域の養蚕業や生糸製糸業の発展過程と歴史などを学んでも、館外へ出て一步街を歩けば直ちに意識が現代に引き戻され、展示物などから得た知識は忘れてしまう*。これと同様の経緯を、私は他地域においても幾度となく体験した。

これらの経験から私は、博物館などの展示物などから学んだ当該地域の歴史的・民俗的知識と現代の地域社会との時間差を埋めるためには、文化人類学や民俗学を学習することによって可能になるのではないか、という期待を永く持ち続けてきた。これが本学シニア専修コース国際文化学科に入学（受講）した私の動機である。

3. 学業（生涯学習）を成した意義

失礼を承知のうえで述べさせていただくと、本学において教授された3年間の講義内容は、時々私の知識の方が上回っていると思えることがあった（失礼のほどご容赦を！）。一般学生とは異なってシニア学生の場合、自身の永い人生経験を経て様々な知識が断片的にせよ身に付

いているので、私が本学の講義内容が物足りないと感じたことにはご理解をお願いしたい。しかしながらそのような経験的な知識は、系統的・体系的に整理して身に付いている訳ではない。他方、本学においては系統的に整理された学問領域が年間を通じて体系的に講義されており、それらの講義を3年間にわたって受講・学習できた意義は大きかったと思う。

一方、3年間の受講の傍ら常々感じていたことがある。それは、学問の府の大学において学修するためには自身を自律的かつ真摯な態度で処さなければならないにもかかわらず、かつての私の学生期は日々無為に過ごし、授業・講義を惰性的にしか受け止められなかった、ということである。勿論、今になって大昔の学生期を自省しても過去に戻ることはできないが、その自省のうえに立って研究生としてさらに継続して学ぶことを決意した。このように、本学において3年間の学業を修めたが故に人生の一時期を省みることができたことには、「感謝」以外の言葉がない。園田学園女子大学に拝。

※最近、博物館と地域社会のあり方の一方向として

「エコミュージアム構想」が提唱されている。

これは当該地域全体を博物館とする考え方であり、愛媛県新居浜市の「産業博物館都市構想」がその好例である。

園田学園女子大学の門



正門
学生さんの素晴らしい成果が紹介されています。

南門
バラをはじめいろいろな花が咲き誇っています。



10日間のトルコ日記

—文明の十字路トルコを旅して—

研究生 中村 米三郎

3月25日～4月3日まで「トルコ不思議紀行10日間」のツアーに参加した。

トルコは、アジアとヨーロッパにまたがる国土をもち、その歴史は非常に多彩である。

また、トルコの国土の97%を占めるアナトリア半島（小アジアともいわれる）は、歴史的にみれば東はメソポタミア文明、西はエジプト文明にはさまれ、ギリシャに隣接し、ローマにも近いこの地域には、古代の文化遺産、優れた遺跡が数々あった。また、宗教的にみても、最初はキリスト教弾圧、キリスト教承認そしてイスラム教へと変化をしていく。この変化に富むトルコ旅行10日間を日記につけてみた。

第1日（3月25日）

関西空港を23:20トルコ航空TK-47便でイスタンブールに向け添乗員を含め15名で出発。13時間のフライト。時差は7時間。

第2日（3月26日）

イスタンブールに5:45（トルコ時間）到着。マルマラ海に沿ってトロイに向けて345km走る。途中でマルマラ海とエーゲ海を結ぶダーダネルス海峡をヨーロッパからアジア側にフェリーボートで渡り、渡った近くにトロイ遺跡があった。トロイは、云うまでもなくホメロスがオデッセイやイリアスでうたった地である。

トルコのガイド、カンさんから最終日まで説明を受けることになるが、トロイでも1時間程トロイの見学を行った。見学後、再びバスで150km走って、エーゲ海沿いのリゾート地で、今晚の宿泊地アイワルクへ向かう。

ホテルの部屋から、エーゲ海が望める。夕日がエーゲ海に沈み、また満月に近い月がエーゲ海を照らしていた。

波寄せる 満月照らす エーゲ海
アジアのはての この趣は

第3日（3月27日）

7:30 にアイワルクを出発して、250 km 走り、エーゲ海地域で最大の遺跡であるエフェソスへ向かう。

エフェソスは、BC14 世紀には定住者がいたといわれ、また BC334 にマケドニアのアレキサンダー大王によって征服される。また、キリスト教との関係が深く、エルサレムを追われた聖パウロによってキリスト教が伝えられ、聖ヨハネも聖母マリアを伴って、この地に移住。

その結果、3～4 世紀ころには、この地はキリスト教布教活動の一大拠点となっていた。聖ヨハネは、晩年この地で新約聖書を編纂しつつその生涯を終えるが、聖母マリアもその余生を送り最後を迎えたのは、このエフェソスであったとされる。聖母マリアの家は、エフェソスからほど近いパナヤ・カプルーという小さな町にあり、ほとんど復元されているそうである。

エフェソス見学は2時間ほど行ったが、全てが圧巻であり、言葉では表現できない。エフェソスは、世界遺産に登録されていないが、その理由は発掘がまだまだ続くので、発掘の制約にならないようにということであった。



エフェソス遺跡

また、バスで 185 km 走り、白亜の石灰棚と温泉で有名な世界遺産で今晚の宿泊地であるパムッカレへ向かう。

第4日（3月28日）

8:00 にパムッカレを出発して、近くにあるローマ時代の都市遺跡ヒエラポリス（文化遺産）とその側にある白亜の石段に水を湛える石灰棚（自然遺産）の複合遺産を見学。

見学後、バスでシルクロードの一部を含め 410

km を走りコンヤに向かう。長距離の移動が始まる。その時間を使って少し歴史の勉強をした。

アナトリア半島は、ギリシャ・ローマ文明よりもはるかに古い歴史を持つ。BC25 世紀頃隆盛を極めた「トロイ」、BC19 世紀世界で初の鉄器文明を生んだ「ヒッタイト帝国」、ヘレニズム時代を経て、ローマ時代でも「ベルガモン」「エフェソス」等の有力都市が繁栄、ローマ帝国が東西に分裂し、東ローマ（ビザンティン）帝国の首都がコンスタンチノーブルにおかれたが、中央アジアから進出してきた「トルコ族」が定住し、「セルジューク・トルコ帝国」を建国、その首都が「コンヤ」であった。その後、モンゴルの進出で一時「トルコ族」の支配は中断するが、「オスマン・トルコ帝国」、そして現在の「トルコ共和国」につながる。

コンヤに着いた。コンヤは、今もイスラム教への信仰心の篤い人達が最も多く住む街の一つなのだそう。また、イスラム神秘主義の一派メブラーナ教団（踊るダルウィーシュ）の発祥地として知られる。マホメットのあご髭を祀り、メブラーナ教団ゆかりの品が展示されているメブラーナ博物館、15 時 30 分になったので塔から礼拝の時間を知らせる合図（アル・アザーン）が流れるアラアッディンモスクを見学した。

今夜は、コンヤで泊まる。

現在残る数少ないシルクロード
に建っていた隊商の宿

第5日（3月29日）

8:00 にコンヤを出発してカッパドキアへ向かう。到着後、洞窟レストランで昼食、そしてカッパドキアを観光。

カッパドキアは、世界七不思議の一つに数え

られる奇岩地帯とキリスト教関係の遺跡の2つの顔を持つ。

今日は、奇岩地帯の見学と奇岩の中に住む一般家庭を訪問した。



カッパドキアの奇岩群



奇岩の中の家に住む家庭を訪問

今夜と明日はカッパドキアの洞窟ホテルで連泊

第6日（3月30日）

今日は、当ツアー最大のイベント「バルーンに乗る」日であるが、私は胃腸が弱いため早朝に1時間も上空に滞在することはとても無理と思い、オプション企画であったので参加しなかったが、どうしてもカッパドキアのバルーン体験は、「けやき便り」に掲載したいと思っていた。幸いにも、足立さん（研究生）の30年来の旧友松田さんがツアー仲間であったので、バルーン体験記をお願いした。

「カッパドキア、バルーン体験」

朝、2時半にふと目が覚めた。

「今日は、バルーンに乗る日だ！」

モーニングコールは3時半。集合は4時45分だが……。

エジプトの事故があって、一旦はキャンセルしたのだが、やっぱりあきらめきれずに、今朝はバルーンに乗る。

「高所恐怖症だったのを思い出したから、やっぱり止めとく」とか言っていた主人も、結局一緒に乗ることになった。

まだ暗い中、ワゴンで集合場所に向かう。簡単な朝食を食べながら、注意事項を聞き、みんなで時を待つ。

ついに私達の船長さんから、「Go！」サインが出て、再びワゴンへ。今度はいよいよバルーンが待機している出発地点へ。

空が明るくなり始め、もうすでに飛んでいるバルーンもちろほら見え始めた。

私達のバルーンが待っていた。青と白のストライプ模様。

6～7人のスタッフが働いていて、バルーンがどんどんふくらんでいく。



いよいよ乗船。かごは5つのボックスに区切られていて、そのうち4つが乗客用。1ボックスに6人ずつ。真ん中のボックスには、船長さんと操縦桿とガスボンベ。船長さんの名前は「エブリゲン」さん。

エブリゲンさんが操縦桿を引くと、ゴーッと大きく火が上がり、気球が浮かんた。いよいよ出発だ。

気球は少しずつ少しずつ上がって行く。それにつれて、視界がどんどん広がっていった大空へ。



空は快晴。風はほとんどない。さらに上空は、もうバルーンで一杯だ。

私達は最初は低空飛行。山の頂きスレスレに飛び、まばらに生えている樹のてっぺんをこすりそう。こんな山上の岩にまで、穴が開けられていて、人が住んでいた形跡がある。



気球はさらにさらに上空へ。視界がグリーンと大きく広がり、カッパドキア全体が見渡せる。ここまで来るとカッパドキアの成り立ちが見える。広い大地は表面がグランドキャニオンのように真っ平に広がり、その大地があちこちで切断されたように切り立ち、その断面が幾重にも層を成している。それが浸食され続け、固い部分だけが残って、きのこ岩の大群ができたのだ。想像以上の大景観だった。高度約900m。エブリゲンさんが、みんなに「ハッピー？」と声をかける。みんなが大声で「ハッピー！」と答える。



飛行時間は約1時間。降りる時はとても慎重だ。何度も何度も地上スタッフと連絡を取り合っ、て、着陸地点を決める。着陸地点はその日の風向きで、毎回変わる。



上から見てみると、下には荷台を引いたトラックが気球に合わせて移動している。降りてくる地点で待つのだ。

乗客も教えられていた着陸姿勢をとって、そのままじっと待機する。これがとても大事。急な風でかごが倒れることがあるからだ。

ついに気球は着陸。でも一旦地面に降りても、トラックの荷台にかごをキチンと乗せるために、何度も少し浮いては向きを変える。かごの重さ500kg。風船の重さ450kg。大勢の地上スタッフも懸命に働いている。やっと無事着地して、喚声、拍手がわき起こった。

下船してからは、セレモニーが待っていた。野原に、テーブル、ワイングラス、ジュースにシャンペンが注がれ、乾杯。



各自に「乗船表彰状」が手渡され、エブリゲンさんがみんなのサインを求めて、誇らしげにぶ厚いダイアリーを広げた。

無事に乗れて本当に良かった。幸せがこみ上げて来る。私のトルコ旅行最高の思い出になりました。

松田 幸子様記

バルーン体験をされた方々も帰って来られたので、9:30にホテルを出発して、キリスト教徒が迫害から逃れて隠れ住んだカイマルクの地下都市を見学。この地下都市は、8階式構造で45mの深さがあり複雑な迷路になっていて、多い時は5000人以上が暮らしたそうである。

この地下都市は2世紀から作られだしたそうであるが、迫害から逃れるためとはいえ、その人間の執着力は驚きであった。

また、このような地下都市がカッパドキアで35ほどあるそうである。



カイマルクの地下都市

午後は、キリスト教の洞窟教会が集まるギョレメ野外博物館の見学である。教会の一つ、暗闇の教会は11世紀に建てられたそうであるが、この教会には、キリストの生涯を描いたフレスコ画が、色彩も鮮やかに残っていた。とても、11世紀に描かれたものとは思えなかった。



ギョレメ野外博物館

今夜も昨夜と同じ洞窟ホテルで泊まる。

第7日（3月31日）

今日は3月の最後の日曜日であり、この日からトルコでは夏時間が始まる。時差は6時間になった。

7:30にカッパドキアを出発して、トルコで2番目に大きな湖で、塩湖として有名なトゥズ湖を経由し、310km走って首都のアンカラに向かう。アンカラでは、近代トルコ建国の父と称される初代大統領アタチュルクを祀るアタチュルク廟、そして旧石器時代・新石器時代・青銅器時代・アッシリア・ヒッタイト・フリギア・古代ギリシャ・ローマ時代などの世界の一级品とされる遺物群を目白おしに展示するアナトリア文明博物館を見学して、飛行機でイスタンブールに移動。今夜はイスタンブール泊まりとなる。

第8日（4月1日）、第9日（4月2日）

ビザンティウム、コンスタンティノープル、イスタンブールという3つの名前をもつこの都市は2千数百年の歴史を持つ。人口1500万人。東ローマ帝国とオスマン・トルコ帝国の首都であった。この都市を、旧市街、新市街、アジア側と行き来をしながら多くの遺跡・観光地を廻る。この中で特に印象に残ったものを記す。

1. 「グランド・バザール」

オスマン・トルコ帝国以来の文化・歴史を色濃く残している世界最大ともいわれるマーケットである。売場面積3万㎡。4千を越す店舗。このマーケットのすべての商品に値札はついていない。交渉で価格を決める。私は英国の高級皮革ブランド「Mulberry」の鞆を3割程度値切って買うが、果たして得をしたか損をしたか??



グランド・バザール

2. 「ボスフォラス海峡」クルーズ

南の「マルマラ海」と北の「黒海」を結び、この都市をヨーロッパとアジアに分けるボスフォラス海峡を貸切の高速艇でクルーズを行った。天気は快晴、イルカにも出会い気分は最高。



ボスフォラス海峡

第10日（4月3日）

イスタンブール00:50 トルコ航空TK-46便で帰国。11時間のフライト。17:55 関西空港着。思い出を一杯持って帰国。有難う、トルコ!!

薬師寺の特別公開

研究生 水原 剛

3月の初旬、国宝の東塔を110年ぶりに解体修理中の薬師寺が特別公開されるので、文歴9期の仲間18人で訪ねました。今回初公開の東塔の内陣や、心柱の最上部に祀られた「仏舍利」などの貴重なお宝を拝見できました。薬師寺はご存じのように、白鳳時代の680年、天武天皇が皇后（のちの持統天皇）の病氣平癒で建立を発願し、698年ごろ藤原京に完成。その後、710年の平城遷都に伴い、現在の西ノ京に移されました。金堂を中心に東西両塔、講堂、回廊が立ち並ぶ伽藍配置は、薬師寺式と呼ばれ、なかでも各層に裳階を施した金堂や塔のたたずまいの美しさは、“龍宮造り”と称されています。金堂には白大理石須弥壇上に、ご本尊の薬師三尊が祀られています。動きのある美しい姿の日光、月光両菩薩を脇侍に、薬師如来様は凛としてお座りでした。手を合わせていたら、何か大切なものをいただけたようです。国宝の薬師如来台座や仏足石、さらに西塔では今回初めてお揃いの四天王像をも拝観し満足しました。

講話を神妙に聴いた後は、同じ境内の玄奘三蔵院伽藍にも参拝。平山郁夫画伯が30年の歳月をかけて完成された、大唐西域壁画を鑑賞しそのスケールの雄大さに大感動です。お弁当を食べて少しは元気を取り戻し、次はお隣の唐招提寺にも参拝。ここはあの鑑真大和上が753年に中国から来られ・・・(略)。広い境内には紅白の梅が咲き誇り、本当に暖かくて気持ちの良い一日でした。帰路は少し足を延ばして垂仁天皇陵に参拝。記念に一枚。

はい、パチリ。尼ヶ辻駅から帰路につきました。ご講話を聴いたからか、今日は皆様が、妙に反省しきりです。電車に乗るなり反省会の開催要望の声が挙がり、なんばに着いたら早速の開宴でした。盛況で声高に行われた大反省会もやがて時間切れに。あとは次回4月の須磨寺参拝まで持ち越しになり、残念ながら散会です。

それでも帰りきれない連中は、さらにもう1軒と足を延ばします。真理の探究とはまことに奥深いものですね。合掌!!



文学歴史学科9期生卒業懇親会

3月14日卒業式の後、3年間を共に過ごした仲間たちがチャティーに集合し、センターからは所長の福嶋先生と榊井課長、文学の吉村先生、史学の大江先生にご出席いただき、乾杯の後はそれぞれにご挨拶を頂戴し、初めて耳にする楽しい話も聞かせていただきました。

座席の配置も先生方の講義内容にあわせ、古典文学、近代文学、歴史と3箇所に分け、それぞれが希望のテーブルに着くという趣向で、話も大いに盛り上がり、中には少し先生方を困らせるような質問もありましたが、卒業ということでご容赦いただけたようで感謝いたします。

卒業後の進路は様々ですが、これからも仲間の絆を忘れずお付き合いいただければ、このように楽しい時間を共有できるとの思いは皆同じだったようで、3年間を凝縮したかのような約2時間の楽しい時間もあったという間に過ぎ、早ければ連休明けにも再会を！との気持ちでお開きとなりました。

センターの皆様とご指導いただいた先生方には3年間お世話になり本当にありがとうございました。最後になりましたが、これからも園田学園女子大学シニア専修コースのご繁栄を祈念いたします。(S. K)



中国古代王朝の魅力にふれて —「中国王朝の至宝」展から—

研究生 遠藤 明

過日、「中国王朝の至宝」(神戸市立博物館)を鑑賞(平成25年(2013)2月14日(金))しました。「金」をふんだんに使用している豪華さは、実に見事でした。何しろ、「王朝の至宝」ですから。それは、時の権力を象徴したものといえるでしょうし、文字通り、貴重なものであり、気品のある宝物といえましょう。それに、文字一つにしましても、今から約1万年前の「新石器時代に、土器の文様などに、『符号』らしききざしをみることができる」と言われますから、それぞれの時代に、これだけの文化が存在していた事実を目の当たりにしますと、中国の歴史の重みに、ただただ驚くばかりです。その一つにふれて、感動致しました。

(1)「中国古代の王朝」の魅力

普通、「中国古代の王朝」と言いますと、それは、いつごろのことなのでしょう。

それは、「夏王朝」(紀元前21世紀～紀元前17世紀)と言われます。

「夏王朝」は、禹が興した(『史記』紀元前91年ごろに成立した歴史書)とあります。そこには、「夏」の歴代17人の帝、四百数十年という歴史が具体的に書かれているそうです。ただ実在を証明する発見がないと言われています。しかし、河南省偃師にある「二里头遺跡」では、「夏王朝」の都の遺跡の候補がいくつか発見されているそうですので、最近の考古学では、紀元前2000年頃に、中国最初の王朝が生まれたとする説が有力になっているそうです。ですから、最初の王朝が、「夏王朝」だということになるようです。そこに、一つの魅力が感じられます。

過日、イタリアとオーストリアの国境、3000メートルの山頂の、氷河の中からミイラが発見されてから20年ほど経って、最近、解析され始めたというのを、テレビで見ました。「アイス・マン」と言われているそうです。そのミイラは、

5300年前と言っていましたから、中国古代の「夏王朝」は、まだ新しい方といえましょうか。いずれにしても、想像を絶するほどです。膨大なロマンを掻き立てられます。

「古代の都市国家が進むと、君主が継承され、他の都市を支配することが行われるようになります。その都市連合の上に立つのが、「夏」であり、続いて、「商(殷)」、「周」であり、「王朝の時代の始まり」となるようです。この頃の至宝を、いくつか掲げましょう。

①「金製仮面」—「殷・西周・前12～前10世紀、2001年、四川省成都市金沙遺跡梅苑区出土、成都金沙遺跡博物館蔵」。ちょうど、大きさは、人の顔の顎から額の中央ぐらいまでの高さ分、しかし、実物は、その何分の一かの置物のような、飾り物のようなものです。ただ全体が金でつくられている点、「一級文物」たる由縁でしょうか。



②「玉璋」—「殷・西周・前12～前10世紀、2001年、四川省成都市金沙遺跡梅苑区出土、成都金沙遺跡博物館蔵」。「玉璋」は、玉で出来ていて、刀のような形をしています。「その薄さからみて、武器ではなく、権力の象徴として儀式に使われた」とみられます。「刀の先端が広がり、左右対称ではないことが特徴です。」



「この形の玉器は、新石器時代に始まり、夏から商の時代に大流行したそうです。」

③「動物紋飾板」—「夏・前17～前16世紀、長辺16.5cm、偃師市二里头遺跡出土／洛陽博物館蔵」。これは、「動物を真上から見たさまを表した装飾品です。キツネのようにも見えます。青銅製の板にトルコ石の小片がはめ込まれています。濃い色の輪郭は、青銅が盛り上がった部分」です。「下の方に顔があり、口の両側に前脚が伸びています。耳の上には幅の広い尾が、その上には、かわいらしく内側に曲げられた左右の後脚。左右対称のデザインです。この動物

が、400 個前後のトルコ石で表現されています。色は、全体に緑色です。」「両側上下に、4つの固定用の穴があり、胸に当ててひもか何かで固定したのでしょう。



身分の高い少数の人々が身に付けた、権威を象徴する装飾品であつたと考えられます。」と、そう説明されています。

これは、以前、平成23年5月28日(土)に、奈良国立博物館「誕生！中国文明」の展覧会でも、展示されていました。確か、入口すぐ近くの壁に展示されていたことを思い出します。何だか懐かしく感じられました。「トルコ石によって象嵌されていた」のが印象的でした。「象嵌」とは、「工芸品の加飾法の一つ。地の素材を彫って、その部分に他の材料をはめ込んで模様を表す技法」だそうです。

④「阿育王塔」―「北宋、大中祥符4年(1011)2008年江蘇省南京市中華門外長干寺里宝塔頂長干寺地宮出土、南京市博物館蔵。」「一級文物」、「日本初公開」とあります。

「南京市の古刹・長干寺の地下から出土した新発見の仏塔。高さが1メートルを超え、この種の遺品の中では最大のもの。」「阿育王塔という名前は、古代インドのアショカ王(阿育王)が、八万四千の仏塔を造立した故事にちなんだもの。」「アショウーカ」王は、「インド、マガダ国の王でマウリヤ朝の第三代の王。紀元前三世紀頃、初めてインドを統一。仏教に帰依、法(ダルマ)を統治の理想とし、それを各地の磨崖碑や石柱碑に刻んだ。仏典の第三回結集を行ったと伝えられ、理想の帝王とされる。」と。」「(『スーパー大辞林』)

この展覧会場に入って、何よりも輝いていたのが、かの「阿育王塔」、そして、先ほどの「金製仮面」、でしょうか。

いずれも「金製」で「日本初公開」です。まばゆい金の豪華さには、驚きのほか、ありませんでした。



(2) 中国古代文明を見つめる3つの視点として

① 王朝の誕生を

王朝、「その強大な力により、人材と富がまとめられ」治められますと、それが、「文明を生み出す原動力となる」と言われています。その「夏王朝」をさらにさかのぼる神話の時代に五帝(五人の帝)が中国を統治したと言われています(『史記』)。五人のうち、最初の帝が「黄帝」というそうです。黄帝に仕えた史官の蒼頡が、最初に文字を作ったと言われています。ヒントは、鳥や動物の足跡だったそうです。

紀元前21～紀元前17世紀、「夏王朝」は、禹が興したと言われていますが、その前の時代(新石器時代)に、レベルの高い「符号」(あることを表すために、一定の決まりでつくられた印)があり、そして、次の商(殷)の時代に使われた、大変完成度の高い「甲骨文字」が、発見されていると言われています。これが、文字文明の最初だそうです。

「甲骨文字」は、「亀甲や獣骨に刻まれた中国殷代の象形文字。紀元前15世紀頃から使われたと考えられる。現存最古の中国の文字。占卜の記録に用いられ、殷墟より多数出土。甲骨文。亀甲獣骨文。殷墟文字。」(『スーパー大辞林』)

「黄河は、大平原の激流に比べて、この辺り(河南省)の盆地では緩やかに流れ、川を渡るのに適した場所がありました。黄河流域の東西と、黄河を挟んだ南北の交流が交差する辺りです。ここは、「中原」と呼ばれ中国の王朝が誕生する舞台となりました。」と。

古代の中国に、「中原に鹿を追う」という言葉があるそうです。

語源は、「古代中国で、皇帝の地位をめぐり繰り広げられた数々の争い」にあったそうです。「多くの人が、地位や目的を得るために争うことを意味する言葉。争いの舞台は中原、地位や目的を鹿にたとえ、大勢の狩人が鹿を仕留めようと追いかけているという状況」を言うのだそうです。

夏王朝の頃に登場した「青銅器」は、初期の頃は、生活を便利にする実用的な道具だったそうです。

「爵」 — 「夏・前17、殷・前16～前16、前15世紀／高さ11.4cm／偃師市二里头遺跡出土／洛陽博物館蔵」。これは、青銅器の爵です。「爵」は、さまざまな形があるそうですが、3つの足を持つことが、特徴といえます。底を火にかけて、酒を温めて注ぐための酒器だと考えられているそうです。



「スーパー大辞林」によりますと、「中国古代の温酒器。先の鋭い三本足を持つ。殷時代の青銅器の祭器がよく知られている。」また、爵には、「天子が諸侯・臣下に授与する社会的身分を表示する称号。周代には、公・侯・伯・子・男の五等が諸侯に、卿・太夫・士の三等が臣下に与えられた。」との身分制度の意味もあったようです。

岡村秀典（京都大学人文科学研究所・中国考古学）先生の「中国文明とその源流を探る」と題した講演（3月18日）から、次の言葉があります。（神戸新聞記事から）「初期王朝時代の＜二里头文化＞（紀元前2000～1600年）の酒の器について」解説。「3本の脚が付いている理由は、醸造過程で雑菌が入って酸味が強くなった酒を、温めて飲みやすくするための工夫」と指摘。

「酒にハーブを混ぜて飲むなど、当時の中国では、香りは重要だった。」と。「爵」についても紹介。「取っ手と注ぎ口の角度が90°である点が特徴」といい、「急須と同じで右利きでないと使いづらい構造」「儀式に参加する当時の貴族は、右利きでないといけなかった」など。

しかし、その後は、道具というよりは、王朝の権威を高める器だったと言われています。文字も、王朝のために生まれたと言います。土器の類は、青銅器の登場によって、最高の地位が取って代わられたというわけです。

② 技の誕生を

中国で最初に実用化された金属は、銅とスズ

の合金の青銅、次いで、金、銀、鉄などです。玉を愛好するのも中国の古くからの伝統だそうです。

美しい石を特に好み、精緻な加工を施して、身の回りを飾ってきたと言います。古代の玉や青銅器には、現代の技術でも再現が簡単ではない、精緻なものがあると言われます。

「玉虎」 — 「西周・前11～前10世紀／長さ16.5cm／洛陽市北窯出土／洛陽博物館蔵」

「玉で虎を象ったアクセサリー。腰からつり上げて身を飾りました。西周時代は、虎のほか、身の回りに実際に生きる動物を象ったことが主流になっています。こういう平たい玉も、立体感を感じさせる技術を持っています。」陶磁器もまた、驚くべき発展を遂げたそうです。色鮮やかでつややかな陶磁器を作る努力がいつそう続けられているそうです。10世紀以降は、交易によって広く世界各地に渡り、世界で最も愛されて



きた工芸品になったと言われています。

③ 美の誕生を

「絵画、書、彫刻などの美術も、分野ごとに長い伝統が受け継がれ、古代から連続的に発展しています。」と言われ、さらに、「絵画や彫刻の分野で、長く創作の対象となったのは、不老不死の神仙の世界、インドから伝わった仏教の世界などの宗教的な世界です。一方、現実の人々や動物を写實的に表そうとする努力も続いてきました。」と言われています。

「中国の文字は、紀元前1300年ごろの甲骨文字に始まり、紀元前後に現在の漢字の形を整えます。文字の美しさは常に追求され、やがて芸術としての書が確立します。」とも。

「卜骨」 — 「商・前13～前11世紀／現存する長さ22.7cm／安陽市殷墟出土／河南博物院蔵」。これは、殷墟で発見された卜骨の一つ。これには、「晴れるか晴れないか、夜雨が降るか、と占った。」「本当に晴れず、夜雨が降った」などという意味の文字が刻まれています。甲骨文字は殷墟以外では、ほとんど発見されていないので、

王だけが文字を支配していた感じが感じられます。

中国古代王朝の偉大さを、中国文明の底深さを、「王朝の至宝」の素晴らしさを、ひしひし感じながら、会場を後にしました。



(終わり)

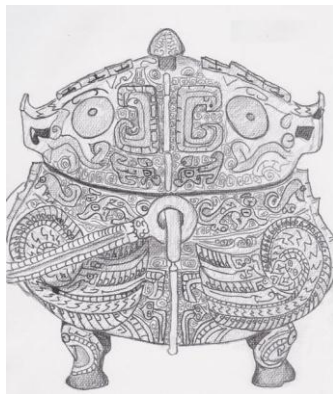
(参考図書)

- ・「誕生！ 中国文明 伝説から歴史へ」 監修 鶴間 和幸 中央公論新社発行 2010 初版
- ・出品目録（当日のパンフレット） 神戸市立博物館

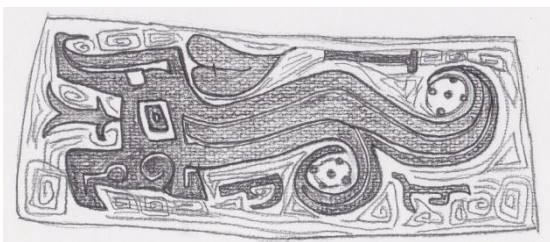
京都市鹿ヶ谷「泉屋博古館」所蔵品より



鸛鳴尊
商後期



鸛鳴尊
商後期



饗餐文有蓋罍
西周前期

(財)泉屋博古館（せんおくはくこかん）は、住友家の美術コレクション、特に中国古代青銅器を保存展示するために昭和 35 年に設立された。所蔵品は、中国の殷（商）、周時代を中心とした青銅器、日本・中国の銅鏡、仏像、明・清時代を中心とした中国書画などが名高い。

インターネット「ウィキペディア」より

スケッチ 国際文化学科2年 金森 扶美子

庄下川だより

園田学園女子大学南門の側を流れる庄下川には、多くの魚や鳥たちが生活をしています。木々の緑が美しいです。一度、庄下川まで足を延ばして、その生きいきとした自然に触れられたら如何でしょうか。春は、桜も綺麗ですよ。



当稿は、「けやき便り」4号に掲載したのですが、今年入学された方々をはじめ多くの方々にも知って頂きたく、改めて当号にも再掲しました。

「けやき便り」編集クラブ

特別寄稿

変わりゆく村、移りゆく人々

吉本 康子

本学シニア専修コース講師（アジア太平洋文化論）

一昨年の夏、ベトナム中南部にある農村を10年ぶりに訪問した。住民のほとんどが水稻耕作で生計を立てている農村で、私が大学院生の時に初めて長期のフィールドワークを行ったチャム人の村である。この10年の間に貯水池や水利施設が整備され、多くの農家が3期作を行えるようになったと聞いている。コメ作りに必要な水を天水に頼り、収穫が不安定だった以前に比べると、人々の生活にも幾分ゆとりができたのではないだろうか。そんなことを思いながら、村の様子を観察した。

村の外観は確かに変わっていた。ベトナムの幹線道路、国道一号線に沿って形成されている村であるが、バイクで走ると土埃が舞い上がっていた村道は、舗装されてアスファルトの道になっていた。狭い村道を挟んで整然と立ち並んでいた土壁色の質素な平屋造りの家々も、多くの棟が改築されて明るい雰囲気になっている。2階建ての家も増えている。私が調査期間中に滞在させてもらっていた兼業農家の家の外観はそれほど変わっていなかったが、家の中には洗濯機、パソコン、電子ピアノなどの家電が新たに増え、小さかった冷蔵庫が大型のものに変わっていた。洗濯機を購入し、早朝の水仕事から解放された女主人は、「朝は健康のためにウォーキングしているのよ。」と言っていた。

思い起こせば、10年前にこの村に到着し、挨拶と調査手続きのために向かった村役場の前は、救援米を受給する村人たちでごった返していた。役場の人の話では、この年、この地域は干ばつの影響で不作が続き、商品用はおろか自家消費用のコメさえも収穫できず深刻な事態に陥った世帯が多くあるということであった。政府の救援米を支給することになったこの日、役人たちはその対応に追われていたようである。私と案内役のチャム人T先生の対応をくださった村長は、私たちに村でどのような調査が

したいのかを尋ね、村の概要の説明、村での滞在先の紹介、「調査許可書」の発行等を担当者に指示した後、お茶を一杯すすって、「ではまたね。」と急いで部屋を出ていった。

地方の農村とはいえ、ベトナムは1990年半ば以降高い経済成長率を遂げ続け、コメの輸出量も拡大し、2000年代にはタイに次ぐ世界第2位のコメ輸出大国になった国である。その国道沿いの農村でコメの救援が行われていることに私は驚いた。役人の話では、周辺の村には水道さえ通っていないところもあるなど、ライフラインが未整備の村も多いということだった。一方、村から250キロほどの距離にある大都市ホーチミン市の私の下宿には、家賃200ドルでテレビ、冷蔵庫、ホットシャワー、電話、そして共用の洗濯機などが完備されていた。大家の家族も同じよう電化製品に囲まれて生活をしていたので、都市と農村の生活水準の違いに複雑な思いがした。ところで、当時の調査の目的は、チャムの人々、とりわけ女性の暮らしや役割が近年どのように変化しているのかを調べることであった。チャム人は母系制、つまり、家や財産を継承して守っていくのが女性の役目で、結婚した後も夫が妻方に居住する社会を形成している。農業を生業とし、そして母系を維持するチャム社会の女性たちが村を出て暮らすことは、本来は極めて稀なことであるとされる。しかしながら、市場経済化や都市化の影響は、ライフラインが整っていない当時のチャムの村にも及んでおり、人々は現金収入に依存して暮らしていた。村の外に出稼ぎに行く若い女性も増える傾向にあり、当時の資料によると、ある村の15歳から19歳までの女性のおよそ4割が、都市への出稼ぎ労働者として村から離れていた。聞き取り調査をしたところ、その多くは、農業だけでは家族が十分に生活するだけの収入を得られないので、高校を卒業後、あるいは、卒業しな

いま、ホーチミン市の縫製工場などに集団で働きに出た女性たちであった。10年ぶりの再訪で村の人たちと話をするなかで、彼女たちの一部は、家族から仕送りを期待されていることもあり、都市で働き続けているという。



(調査地での一コマ。右端が吉本)

私が滞在させてもらった家の女主人にも4人の子供がいる。再訪した時には、4人のうち村の娘と結婚した長男を除く3人の娘が、ホーチミン市やビントゥアン省の省都ファンティエット市に部屋を借りて暮らしていた。村に戻る予定も当分ないようだ。帰省していた長女に理由を聞くと、地元には仕事がないので都市に暮らすよりほかない、という。この一家は4人の子供たちを全て大学まで進学させている村では

裕福な家のひとつであるが、3人の娘たちのように、経済的には恵まれていても村を離れる人たちはいる。チャムの社会では伝統的に末娘が家を継承し、老後の父母の世話を期待されている。末娘も帰ってこなかったらどうするの?と母親である女主人に尋ねると、「家と土地は継いでもらうけど、まずは仕事を見つけてもらわない」と言った。

ベトナムの人口のおよそ半数は農林業に従事する人々である。農民の暮らし、意識、そして農村社会は、今後どのような変容をもたらすのか。引き続き注目していきたい。

吉本先生特別寄稿文掲載について

平成24年度「国際文化演習(1)、(2)」(河合教授ご担当)の1年間の授業の成果が小冊子『旅とフィールドワーク 2号』にまとめられ、刊行されました。この冊子には、授業でベトナムのことを教わっている吉本先生にも、ご寄稿をお願いしました。この素晴らしい寄稿文を多くの方々に読んで頂きたいと思い、「けやき便り」に転載したい旨をお願いしたところ快諾を得ましたので、掲載させて頂きました。

吉本先生、有難うございました。

研究生 中村 米三郎

ク ラ ブ 紹 介

「けやき便り」編集クラブ

過去に情報誌があったことを知った新入生4名が、まさに情熱だけでスタートさせた「けやき便り」も、平成22年10月の創刊号発行以来今回で第8号の発行となり、18名の大きな輪に広がりました。

これも投稿していただく皆様方、総合生涯学習センターの皆様方のご協力とご支援のおかげと感謝しています。

現在は年2回程度の発行を目標に、都合の良い

日(もちろん授業優先です!)を選んで和気あいあいと活動し、時にはワイワイガヤガヤと二次編集会議(二次会)をする場合もあり、楽しいひと時を過ごしています。

園田で学び、何かやってみたい方はもちろん、漠然とした不安や不満のある方も、近くの部員に声をかけてくだされば、その一声で今までと違う一歩が踏み出せると思いますし、扉はいつも大きく開かれていますのでどなたでも気軽に覗いてみてください。

文 木下 俊造

けやきコーラス

筆者の経歴を少し。高校時代の母校では昼休み、生徒会発行の歌集を手にピアノのある教室に多くの生徒が集まり好きな歌を全員で歌う、丸で歌声喫茶のような古き良き時代。



社会人となり企業の合唱部に誘われ入部、本格的な合唱の始まり。2年半で指導者の転勤により廃部。以来定年退職するまで合唱とは縁無し。退職の翌年(平成19年)、本大学の公開講座「楽しいコーラス」受講。平成20年秋、公開講座受講生である筆者1人シニア専修コースのクラブ活動「けやき」コーラスに入部。歌を楽しむ人生を過ごしています。歌唱指導は田井先生、ピアノは山岸先生、部員は女性7名、男性4名。小人数ですが、混声二部・三部・四部合唱で、童謡・唱歌・日本歌曲・歌謡曲・洋楽など種々の歌を歌います。月3回、金曜日14時40分から学生食堂ホールで練習しています。



練習の成果は、秋のけやき祭(学園祭)出演、シニア専修コースの入学式・卒業式で披露します。

公開講座の先生曰く、歌はスポーツ、体力が必要とのこと。小さな声も歌うことにより大きな声を出せるようになります。歌を楽しみたい

方、譜面は読めなくとも歌の好きな方、歌が健康にいいと思う方、ぜひ気軽に練習風景をのぞきにきてください。

文 橋本 秀明

けやきテニス同好会

シニア専修コースでは、唯一のスポーツクラブです。

校門を入ってすぐ左側に、何時もテニスコートを見て、私達シニアもこのテニスコートで、テニスが出来たら良いのに！！と考えたところから発足しました。

6号館の裏側にある、これも園田学園には1面しかないオムニコートを、無料でお借りして月2回の予定でテニスを行っています。

テニスを通して、学園生活を楽しむことが目的のクラブです。

テニスは、本来は激しいスポーツですが、私達のテニスは、シニアらしくそれなりの動きで汗をかいています。

皆さん、良い汗をかきませんか！！

会費は、

入会時、入会金として500円

例会参加時、参加費として300円を徴収します。



中村 米三郎(研究生)
連絡先 090-6735-8726

けやきITを楽しむ会

「けやきデジカメクラブ」は今年から「けやきITを楽しむ会」に名称を変更しました。各コース、月2回のペースで活動します。参加費は、テキストをお渡しした時のみテキスト代として300～500円を徴求します。

1. パソコンコース

パソコンをより便利に、楽しく使うことを目的とします。

- (1) ワード、エクセル、基本ソフトなどの便利な機能、楽しい機能
- (2) デジカメで撮影した画像のパソコンへの取込み、編集、活用

2. ITコース

ITの基本となっているプログラムの作成を通してソフトウェアを理解し、ITの楽しさを実感することを目的とします。

(1) 第1段階

エクセルでVBA (Visual Basic for Applications)を使ってプログラム(アプリケーション・ソフト)を作成し、プログラムとは何かを理解します。

(2) 第2段階

① 初歩的なiPhone/iPadのアプリケーション・ソフトを開発して、ソフト開発に慣れていきます。

② 実用的なiPhone/iPadのアプリケーション・ソフトを開発し、アップロードをして、自分で作成したソフトを使って、ソフト開発の楽しさを実感します。

3. パソコン入門コース

6回にわたって、「パソコン入門」・「入力について」・「パソコンの基本的な操作・ツール等について」・「ワード入門」・「エクセル入門」・「インターネット」・「パソコンの必要な操作」等のパソコンの基礎を勉強します。

【パソコン講師の独り言】

◎テザリング

私は、7～8年前からボランティアでパソコン講師を行っています。インターネットの講習は、イ

ンターネットに接続できないため行うことができませんでした。

最近、スマートフォンでサービスが行われているテザリング機能を使えば、パソコン・iPadがスマートフォンを経由してインターネットに接続できるので、パソコン講習にも幅ができて楽しみです。

ITの進歩は、凄いな！！と思いました。

◎テキスト

いろいろなパソコン関係の本が販売されていますが、その殆どは参考書で、パソコン講座のテキストとしては使いにくいので、私たちは手作りのテキストを作成しています。

ところで、私は、動画編集ソフト「MovieMaker」で動画の編集を行うのが好きで、かなりの大作になりましたが、そのテキストを作成して、動画編集の講座を行ったこともあります。「MovieMaker」は、「LiveMovieMaker」にレベルアップされましたが、残念ながら4分の3世紀を生きてきた私には、そのテキストを作成する気力がありませんでした。

最近、大きな本屋のパソコンコーナーで、「LiveMovieMaker」のテキストを発見して「やった！！」と思いました。

このテキストを使って、来年1、2月頃、私の好きな「動画編集」を皆さんとご一緒に勉強したいと思います。

このようなソフトのテキストが市販される状況は有難いと思いました。

中村 米三郎 (研究生)

連絡先 090-6735-8726

シニア専修コースの
クラブのうち
けやきコーラス、
「けやき便り」編集クラブ、
けやきテニス同好会、
けやきITを楽しむ会、
を紹介しましたが
それ以外に
謡曲クラブ、
けやき写真倶楽部が、
あります。

よろしくお願ひします。

「けやき便り」の投稿について

1. 「けやき便り」は、原則として「MS明朝体」「12ポイント」のフォントを使います。
(もし上記と異なる場合はご相談ください。)

2. 原稿について

① 原稿用紙で頂く場合

市販の400字づめ原稿用紙をお使いいただくか、またはメモ用紙に記入して頂いても結構です。また、当クラブも専用の400字づめ原稿用紙を用意していますので、必要な方は、お申し出下さい。

② パソコンでプリントされた場合

プリントされた用紙をそのままご提出下さい。できれば、画像が含まれている文書を投稿される時は、ファイルのまま頂くと非常に有難いです。その場合、提出方法は、編集クラブ員にご相談下さい。

3. 次の内容を含む投稿はお断りします。

- ① 宗教・政治に関するもの
- ② 公序良俗に反するもの
- ③ 一般常識の範囲を大きく逸脱していて、「けやき便り」編集グループが、掲載することを不可と判断したもの

4. 原稿は、止むを得ない場合に限り、変更・修正をすることがありますのでご了承ください。

- ① 紙面のレイアウトを整えるため
- ② 編集グループで気がついた明らかな誤記や不適切な表現を避けるため

5. 頂いた原稿は、編集およびページ数の関係上、最新号に掲載できない場合があります。また、原稿は返却いたしかねますので、ご了承ください。

6. 投稿される方は極力お名前を書いていただきますようお願いいたします。無名・匿名・ペ

ンネーム等をご遠慮ください。

7. 画像を掲載する時、カラー画像を頂いても、紙面には印刷に適した色に変換して掲載しますのでご了承ください。

8. 投稿は2号館1階にある総合生涯学習センターに設置してある「けやき便り」投稿箱にお願いします。



総合生涯学習センターは、5月27日(月)に1号館1階から、2号館1階に移転されました。



2号館1階事務所入口と掲示版



総合生涯学習センター事務室

「けやき便り」編集クラブ新入部員大いに語る

本年は4名と多数の新入部員を迎え、異例ながら新入部員の思いを大いに語ってもらい掲載させていただきました。

その一部ではありますが、皆様も何故？や共感できる！の部分を探しつつ、編集クラブの一端に触れていただければ幸いです

園田シニア専修コースには皆様どうして入学を？

- ・ 神戸シルバーカレッジで園田シニア専修コースの事を知っていました。卒業後こちらに来ました。
- ・ 以前から園田シニア専修コースに情報学科が有るのを知っていました。
仕事でワード・エクセルを使っていたが、情報のことが知りたいのと家族から薦められましたので。
- ・ 人生に凄い事がおきリビング紙で園田の事を知りました。落ち込んでいた気持ちを前向きに生きようと思い入学しました。
- ・ 夫を亡くした後、生活のリズムが乱れ寂しさに耐えられずにいたところ、たまたま入った新聞のチラシ広告で園田シニア専修コースを知り、若さのオーラと知識が得られれば・・・と迷わず入学を決めました。

今後、園田シニア専修コースでしてみたいことは？

- ・ 勉強と編集をしたいです。クラブ活動が少ないので何か作りたと思います。
- ・ クラブは全然考えていませんでしたが、情報学科に役立つ「ITを楽しむ会」等自分の学科に役立つクラブに入りました。
- ・ ハイキングの企画があれば参加したい。
- ・ クラブ活動を立ち上げたいです。
たとえばペタンク等何か簡単にできるクラブを作りたいです。

- ・ 色々な知識を得たいです。
- ・ 老化による視力低下の為、本を読むのが苦痛になり、講義による知識獲得はありがたいです。

園田シニア専修コースの雰囲気や今の心境は？

- ・ 若い女子学生が多いので圧倒されます。
学食でも親切に教えてくれて良いお嬢さんたちが多いと思いました。
- ・ 学生のお手本となるよう大人として、恥かしくない行動をしようと思いました。
- ・ 選んで良かったです。正門からのけやきアベニューのけやきの新芽の萌え出づるような気持ちです。

編集クラブ入部理由と現在の感想は？

- ・ まだ入部して日も浅いので解りません。
- ・ 部数を減らして年に4回ぐらい出したいと思います。
- ・ 有意義なクラブと思います。
朗読を聞く会とか自習勉強の集いなどがあれば参加したい。
- ・ 入学式でのクラブ紹介に心惹かれて入部を決意しました。
- ・ たくさんの方と知り合えて良かったと思います。

今号はいつもの編集後記に替えて
「編集クラブ新入部員大いに語る」を
掲載いたしました。